

高梁市地域公共交通総合連携計画
23年度継続事業
24年度事業計画

24年度事業計画スケジュール

	24年4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			25年1月			2月			3月				
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下		
備中地域運行再編																																						
利用状況調査・分析・検討																																						
成羽地域運行再編																																						
利用状況調査・分析・検討																																						
川上地域運行再編																																						
住民アンケート																																						
現地調査・ヒアリング、現状分析																																						
地域内運行計画(素案)作成																																						
住民意見交換会																																						
実証運行計画作成																																						
利用促進パンフ等作成																																						
実証運行																																						
利用状況調査分析																																						
タクシー乗務員対象観光ガイド育成																																						
観光案内資料整理																																						
マニュアル作成																																						
ガイド育成研修																																						
交通会議																																						

高梁市地域公共交通総合連携計画

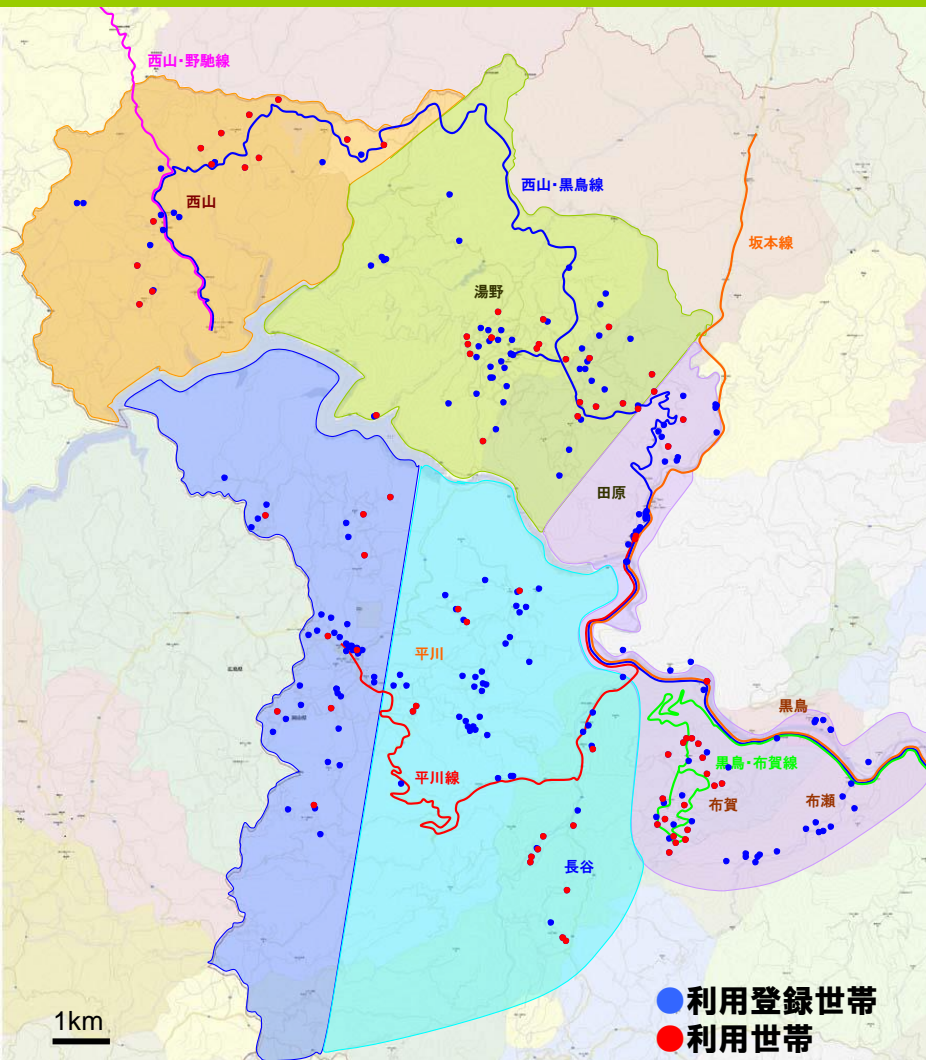
23年度継続事業

- ◆備中ふれあいタクシー実証運行
- ◆成羽生活福祉バス実証運行
- ◆低利用路線の見直し

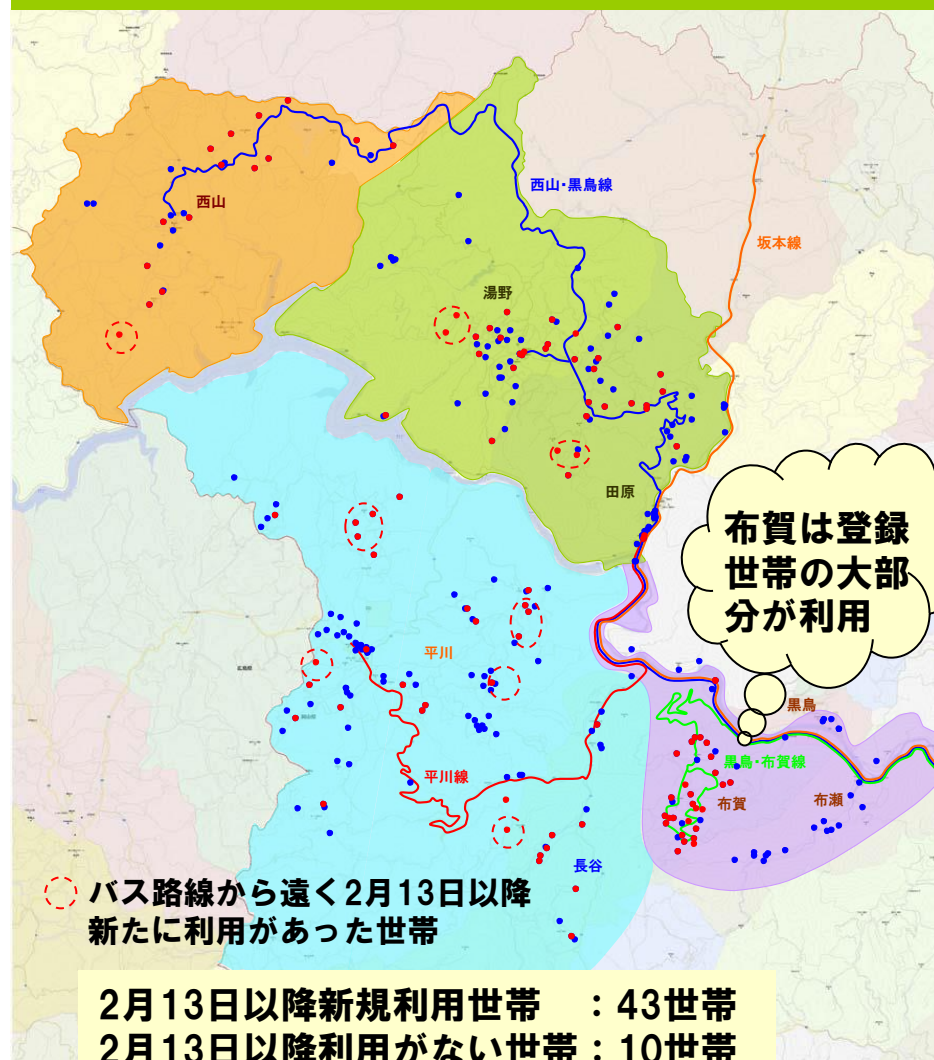
1. 備中ふれあいタクシー実証運行

(1) 利用世帯分布

10月3日～2月11日利用世帯 80世帯



2月13日～6月30日利用世帯 113世帯

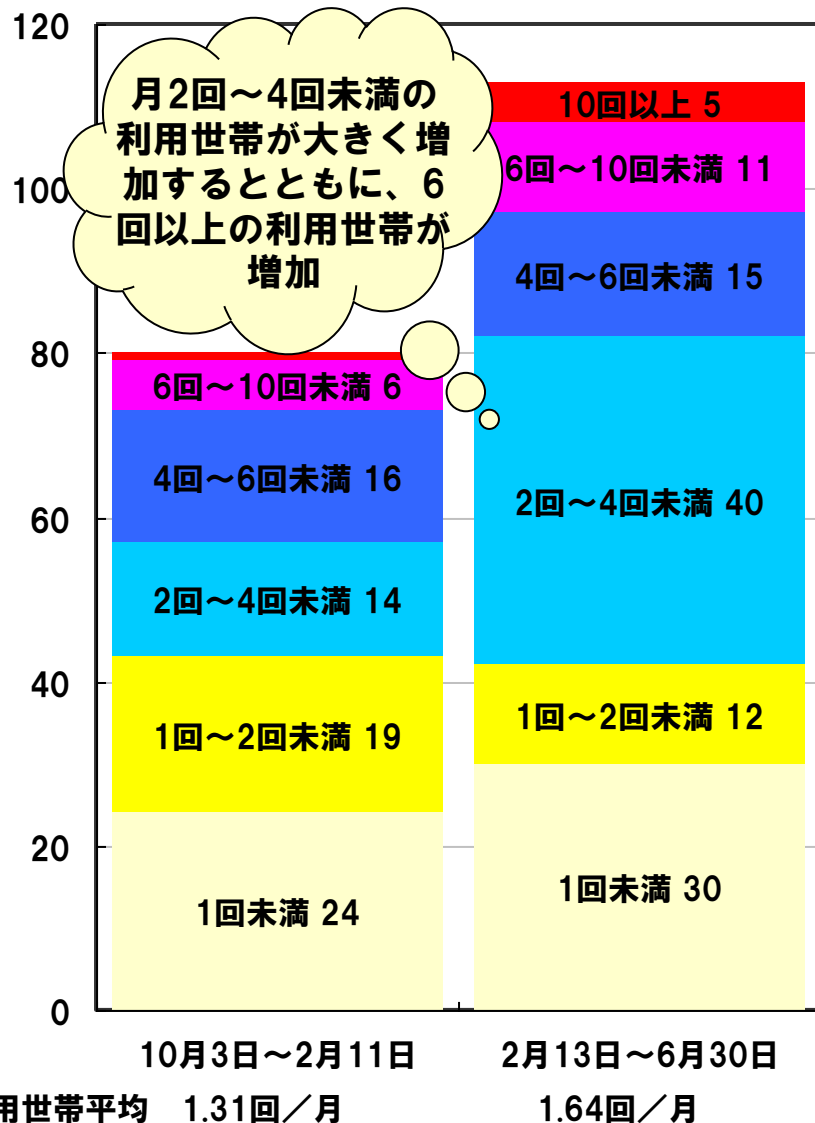


注) 利用者不明を除く

1. 備中ふれあいタクシー実証運行

(2) 利用頻度

利用世帯の月平均利用回数



利用回数別世帯分布



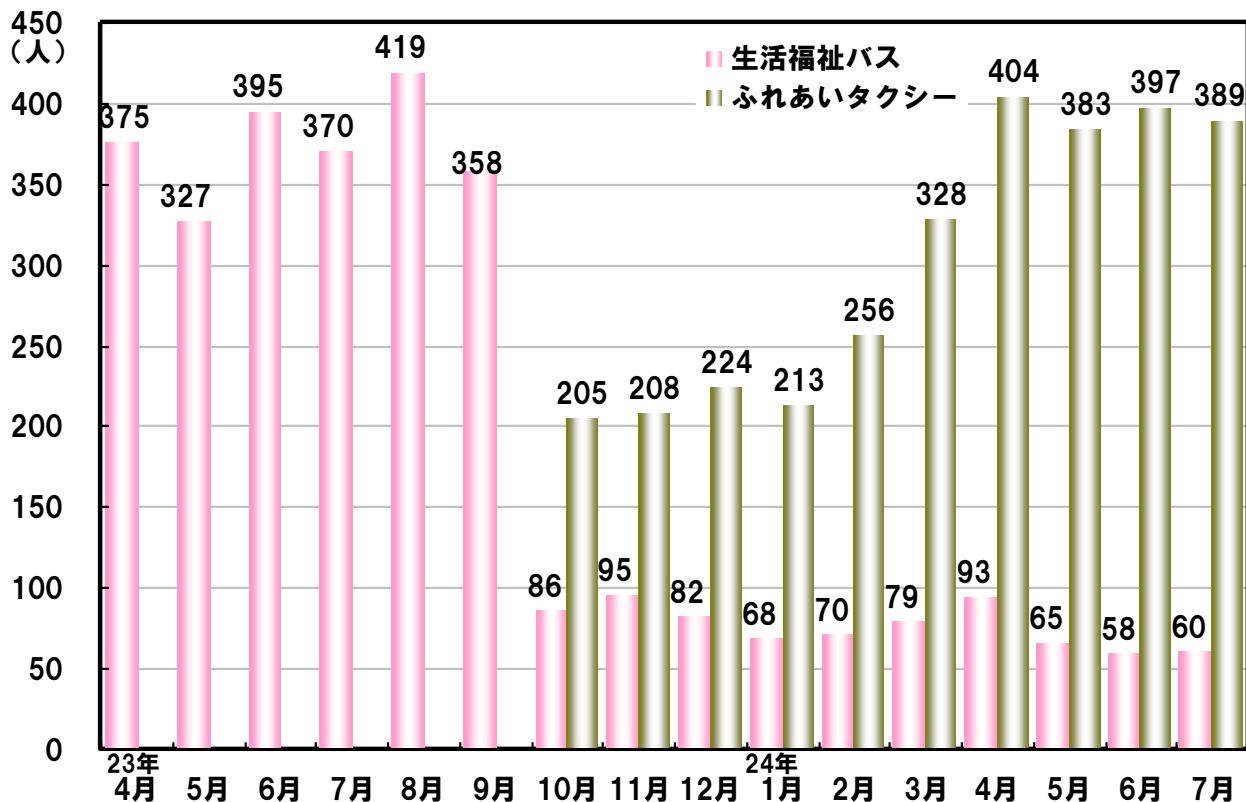
注) 利用者不明を除く

(3) 延べ利用数

①延べ利用者数の推移

- ◆10月～1月は月200人余りで横ばいで推移していたが、2月から4月にかけて急増。
- ◆4月から地区割りを変更するとともに、各地区週1～2日の運行を週2日～3日に増やしたことにより4月～6月は、ふれあいタクシー利用者が前年の生活福祉バス利用者数を上回る。

延べ利用者数の推移



地区別運行日

23年10月～24年3月

運行区域	月	火	水	木	金	土
西山		1台			1台 東城	
湯野		1台			1台	
田原・布賀 黒鳥・布瀬				2台		2台
平川西	2台					
平川東 長谷			2台			

24年4月～

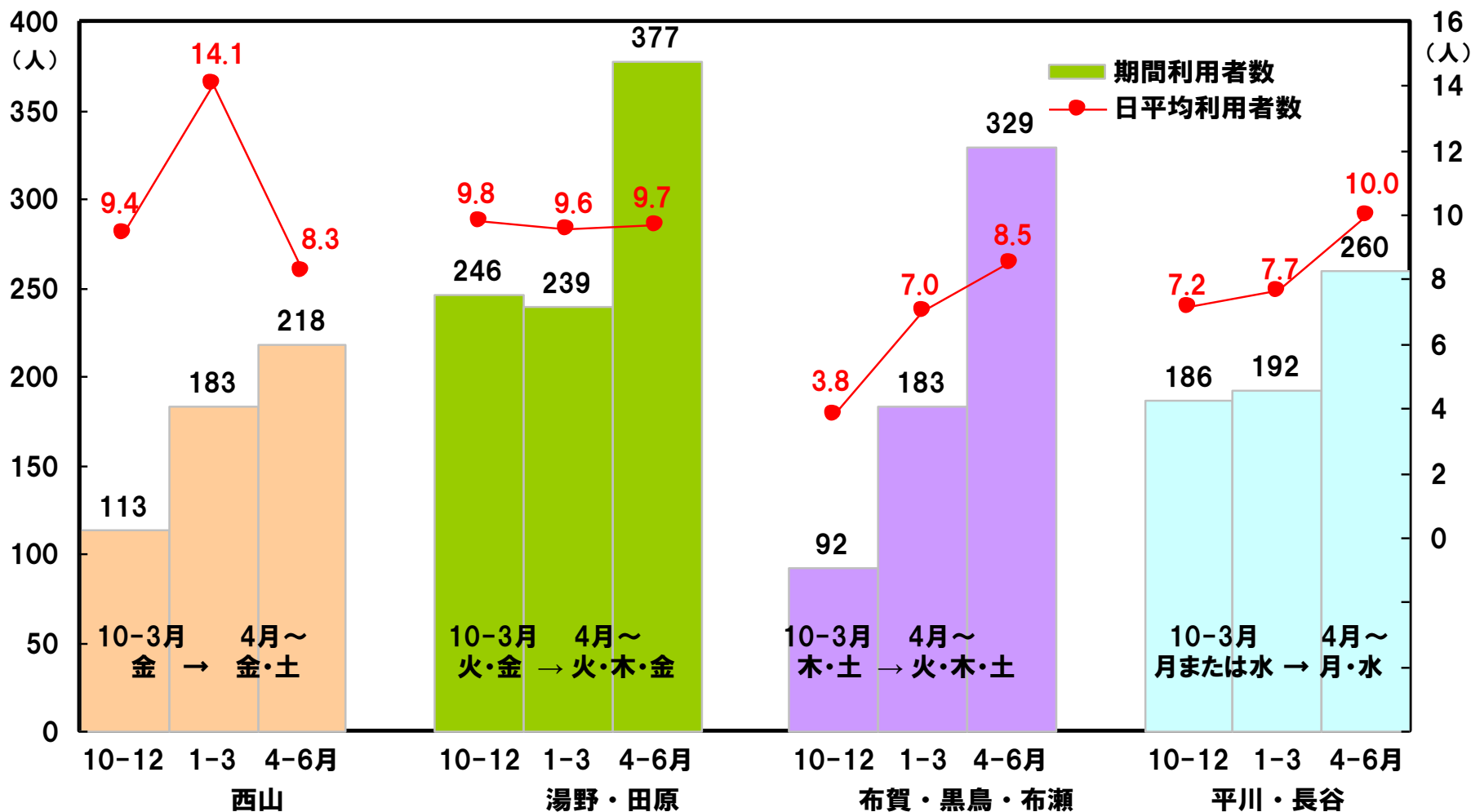
運行区域	月	火	水	木	金	土
西山		1台			1台 東城	1台 東城
湯野・田原		1台		1台	1台	
布賀・黒鳥 布瀬		1台		1台		1台
平川・長谷	2台		2台			

(3) 延べ利用数

②地区別期間利用者数・日平均利用者数の推移

◆日平均利用者数は、運行日数が増えた4-6月も西山を除いて増加

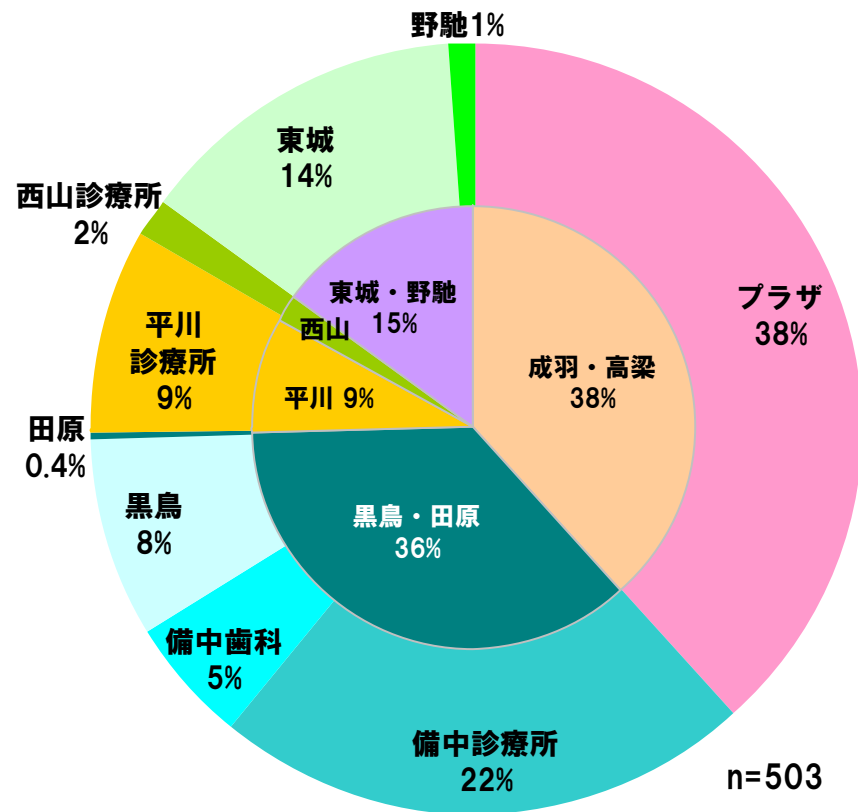
※西山の場合、利用の少ない土曜日を追加



(4) 利用目的地

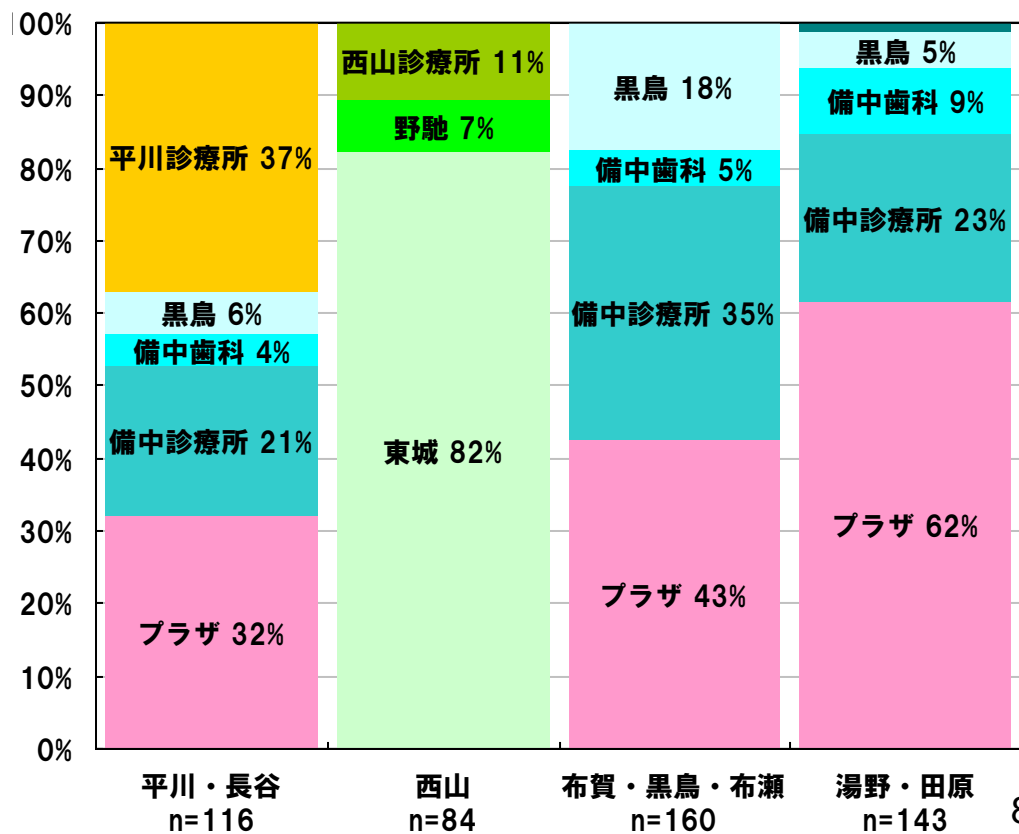
- ◆利用目的地としては川上プラザが38%と最も多く、続いて備中診療所（22%）と続き、湯野・田原地区では、プラザが6割以上を占める。
- ◆成羽・高梁、東城・野馳など備中地域外の目的地が53%を占める

利用目的地



地域別目的地

(24年4月-6月)



(5) 送迎風景

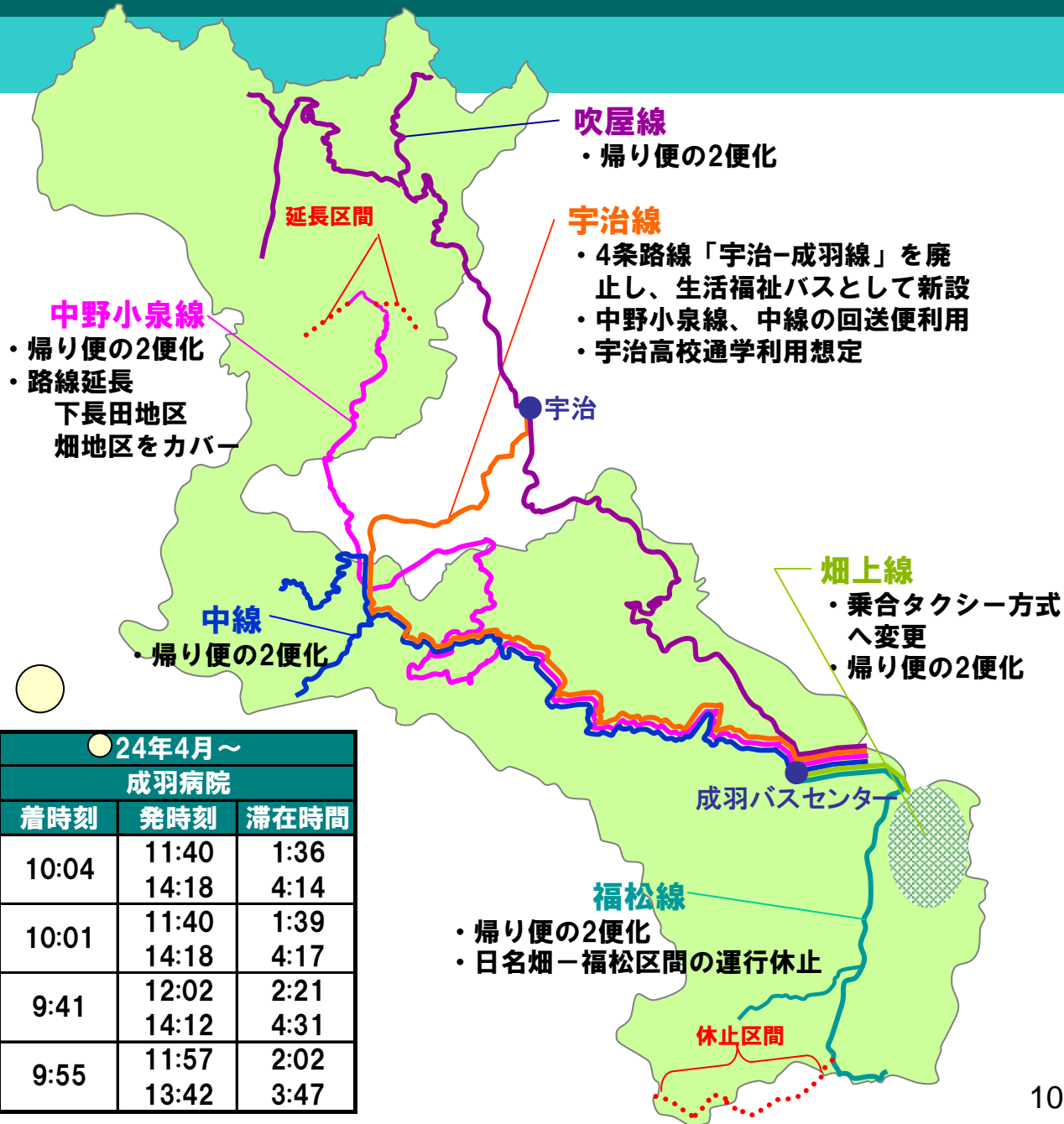


2. 成羽生活福祉バス実証運行

(1) 運行概要

帰りの2便化

成羽での滞在時間2時間、4時間を目安にダイヤ編成



	～24年3月			●24年4月～		
	成羽病院			成羽病院		
	着時刻	発時刻	滞在時間	着時刻	発時刻	滞在時間
中野小泉線	9:17	14:00	4:43	10:04	11:40 14:18	1:36 4:14
中線	9:15	14:00	4:45	10:01	11:40 14:18	1:39 4:17
吹屋線	9:41	14:02 15:02	4:21 5:21	9:41	12:02 14:12	2:21 4:31
福松線	9:52	13:32	3:40	9:55	11:57 13:42	2:02 3:47

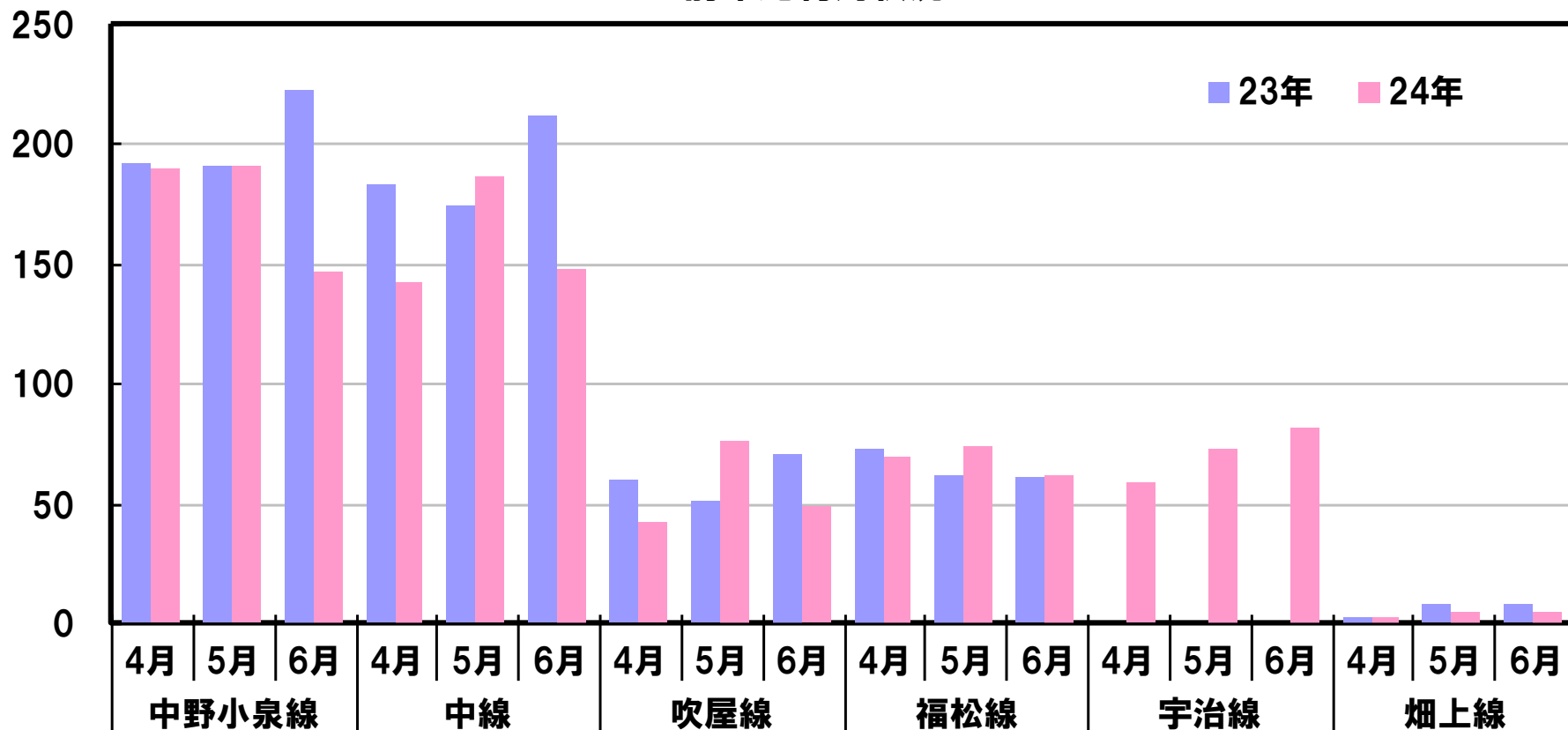
(2) 利用状況

①延べ利用者数

◆対前年比で4月は各路線とも減少し、5月は前年並みとなったが、6月は再び減少し、4-6月期は前年比12%減。特に中線の落ち込みが大きい(20%減)。

◆宇治線の6月の日平均利用者数は4.1人で前年6月乗降調査時(1.9人宇治-成羽線)の2倍強。

前年比利用状況

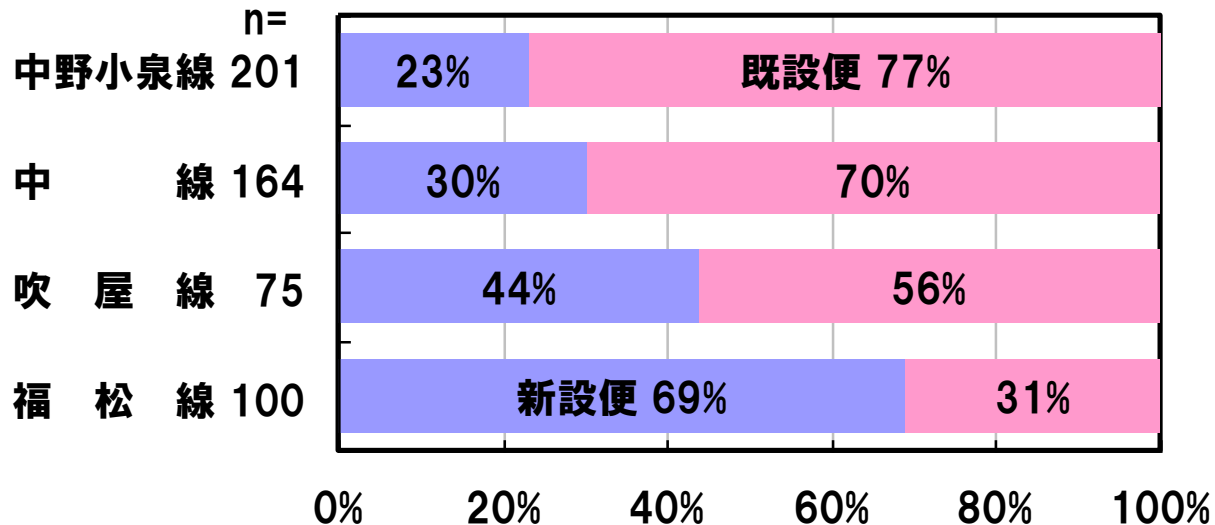


(2) 利用状況

② 帰り便利用状況

◆ 帰り便の利用状況は、中野小泉線、中線では、②便（既設便午後2時18分発）の利用が多く、福松線では①便（新設便11時57分発）の利用が多い。中野小泉線、中線の場合、①便では、成羽病院での滞在可能時間が1時間36～39分と、福松線（2時間2分）、吹屋線（2時間21分）に比べて短く、これが一因と考えられる。

帰り便利用状況（24年4-6月計）



成羽病院滞在可能時間

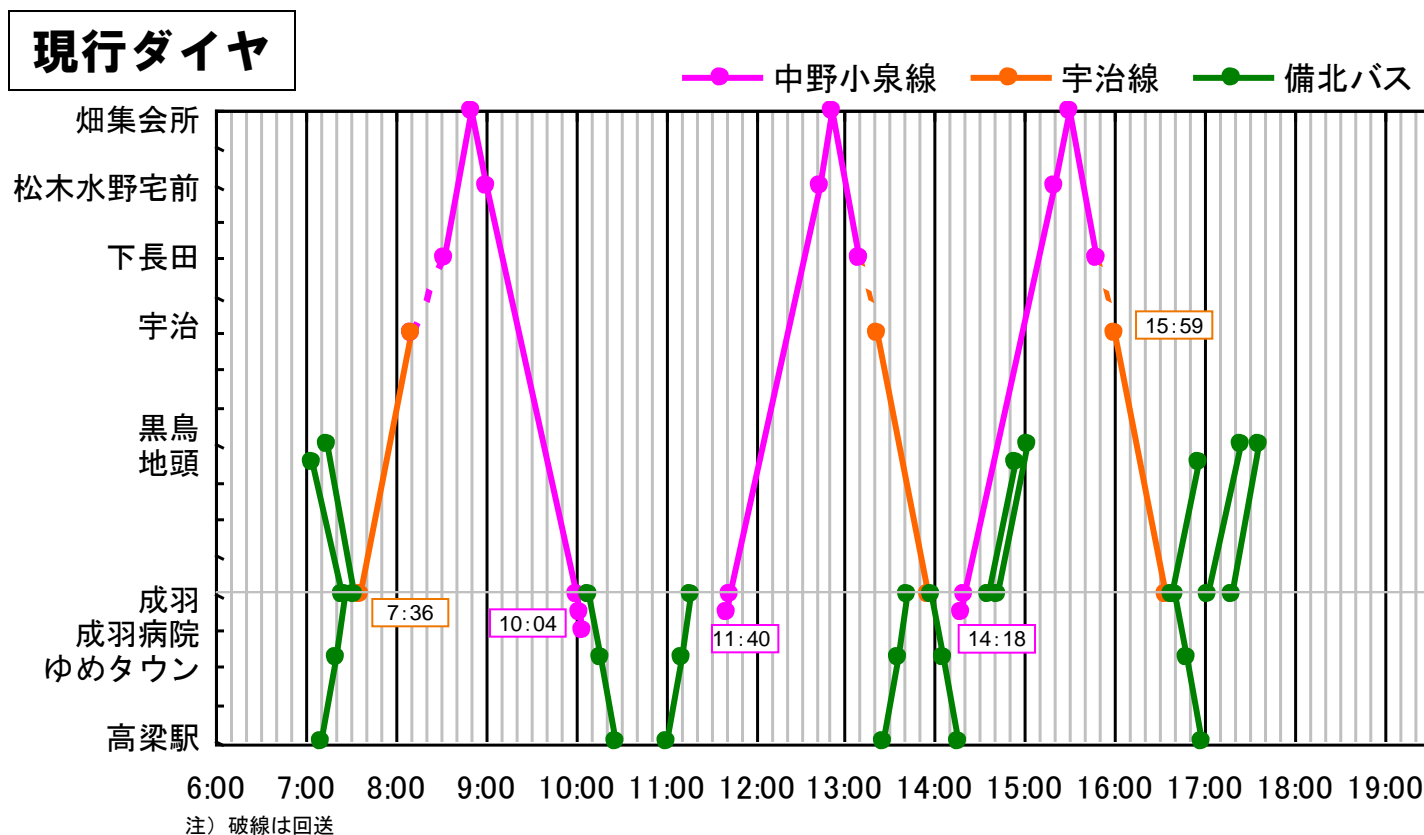
行き便着時刻	帰り便発時刻	滞在時間可能時間
10:04	① 11:40 ② 14:18	1:36 4:14
10:01	① 11:40 ② 14:18	1:39 4:17
9:41	① 12:02 ② 14:12	2:21 4:31
9:55	① 11:57 ② 13:42	2:02 3:47

(3) 成羽生活福祉バス実証運行見直し(案)

見直し内容

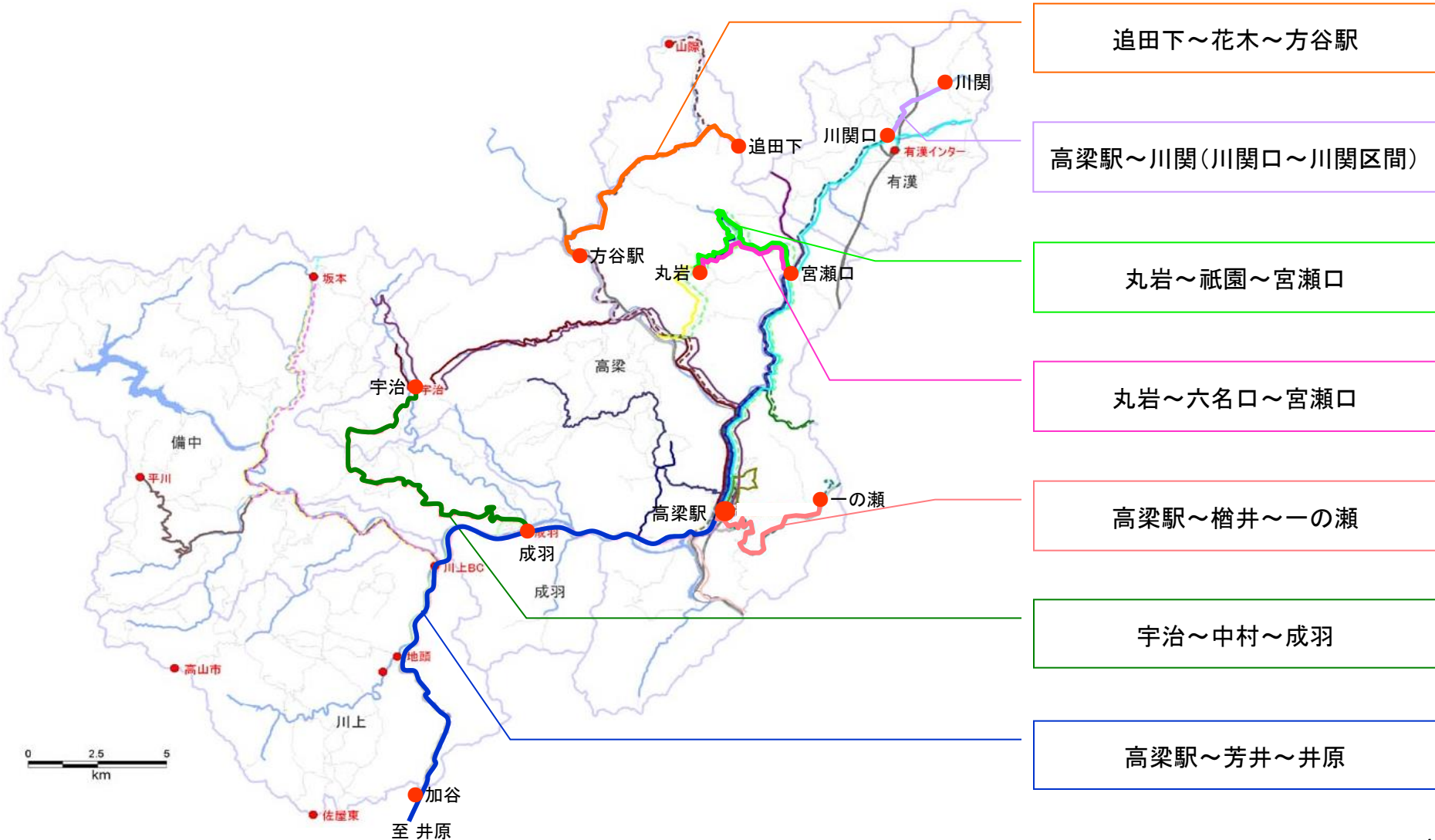
中野小泉線、中線の帰り第1便までの成羽病院滞在可能時間を現在の1時間34分～39分から2時間程度に増やす

※利用状況を精査し、備北バスとの接続を考慮しながら、関係機関(成羽地域局、宇治高校、運行事業者等)と協議の上、可能な範囲で延長



3. 低利用路線の見直し

(1) 見直し対象路線



3. 低利用路線の見直し

(2) 見直しの方向

線・系統・(区間)	年度	乗車密度	運行回数	経常経費(千円)	収支率	恒常的通学利用
追田下～花木～方谷駅	H23	0.0	0.8	1,593	3.1%	なし
	H22	0.1	0.8	1,574	3.9%	
高梁駅～川関口～川関 (川関口～川関区間)	H23	1.3	3.1	12,920	24.5%	なし
	H22	1.5	3.1	12,757	28.9%	
丸岩～祇園～宮瀬口	H23	0.0	0.2	442	2.5%	なし
	H22	0.1	0.2	445	3.7%	
丸岩～六名口～宮瀬口	H23	0.8	0.5	558	25.9%	小学生不定期利用
	H22	0.0	0.5	566	3.1%	
高梁駅～楢井～一の瀬	H23	0.2	0.5	866	6.4%	小学生不定期利用
	H22	0.6	0.5	859	16.0%	
宇治～中村～成羽	H23	0.2	0.6	1,992	4.7%	なし
	H22	0.2	0.6	1,964	5.2%	
高梁駅～芳井～井原 (高梁駅-加谷区間)	H23	0.9	1.3	10,779	15.8%	通学利用
	H22	1.2	1.3	10,630	19.8%	

3. 低利用路線の見直し

(3) 高梁駅～川関口～川関線見直し（案）

路線短縮：

川関口～川関区間を廃止し、有漢インターを起終点とする。



高梁市地域公共交通総合連携計画

24年度事業

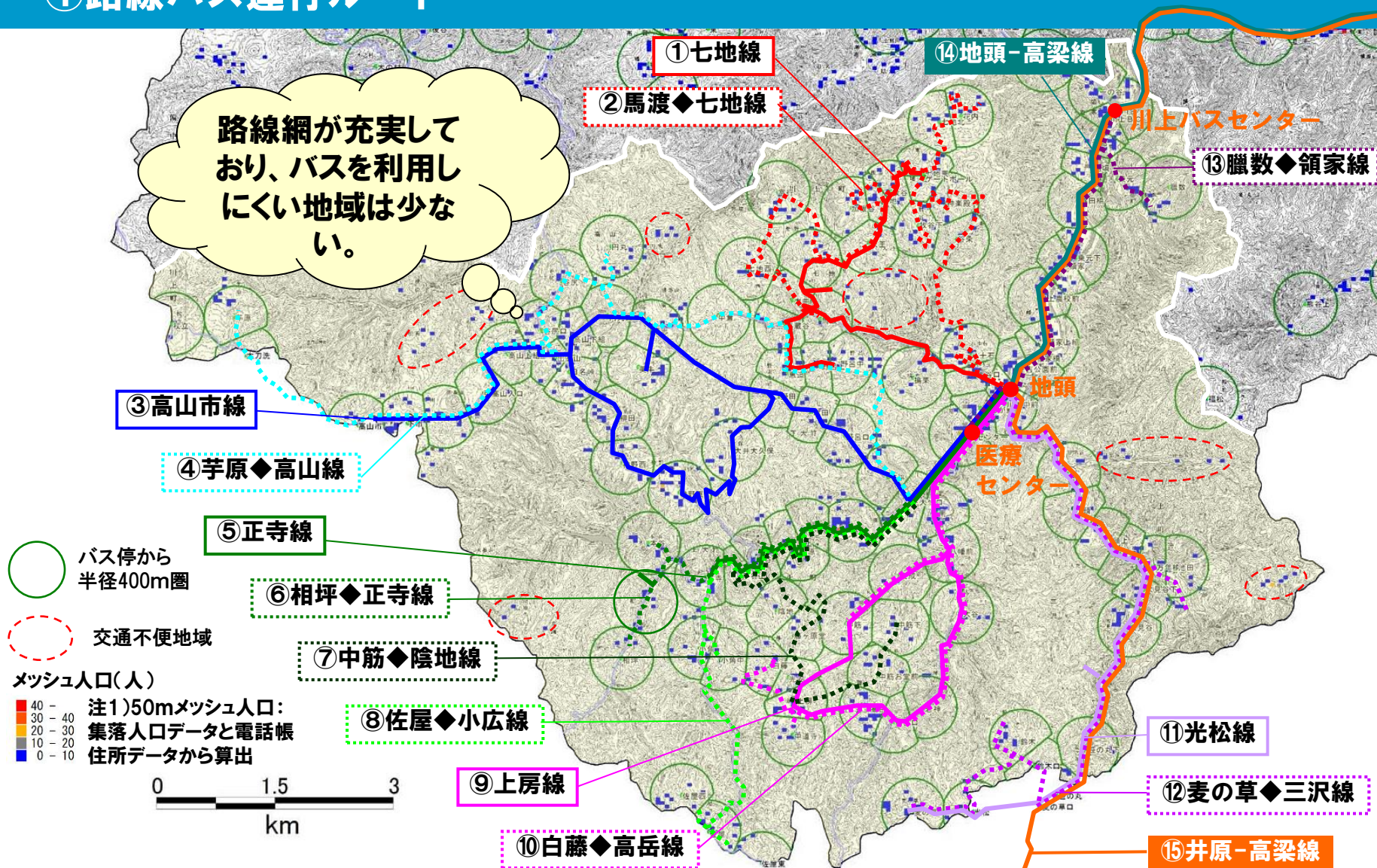
◆川上地域における交通再編

1. 川上地域の交通再編

(1) 公共交通の状況

① 路線バス運行ルート

路線網が充実しており、バスを利用しにくい地域は少ない。



②運行便数・利用状況

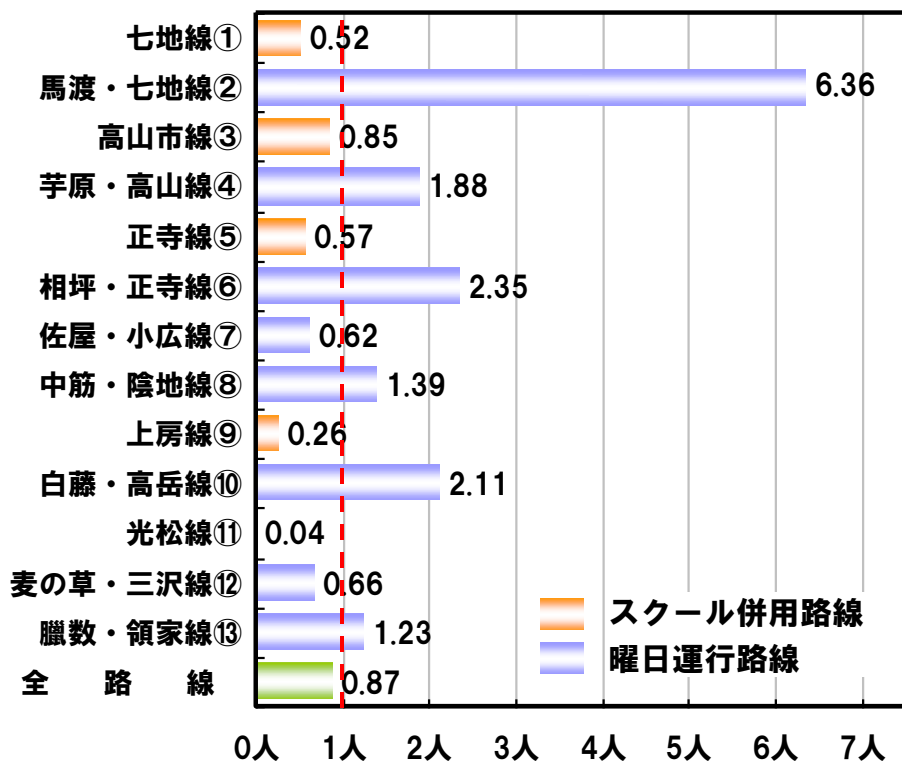
◆1便当たりの平均利用者数（小中学生の通学利用を除く）は**0.87人**と、
スクール併用路線を中心に1人未満の路線が過半数を占める。

※高梁市地域公共交通総合連携計画に定める運行見直し基準：1便当り平均利用者数1人未満

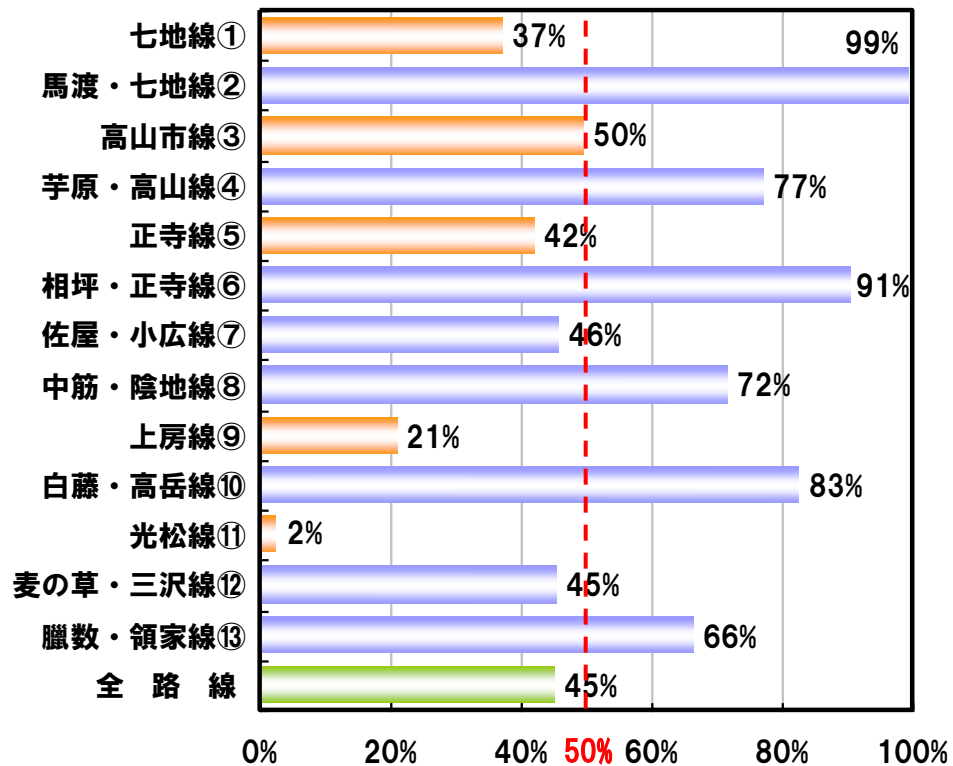
◆全運行便のうち、乗客があった便の割合は45%と半数以下
=空便が半数以上

※実車率：乗客（小中学生の通学利用を除く）があった便数／全運行便数

1便当り平均利用者数（23年度）



実車率（23年度）



②運行便数・利用状況

23年度生活福祉バス運行・利用実績

路線	運行日	平日 運行回数	年間 運行便数	一般利用者数		スクール利用		
				年間	1便平均	中学生	小学生	園児
① 七地線	毎日	3.5回	1,941便	1,012人	0.52人	9人	18人	1人
② 馬渡◆七地線	火◆金	1.0回	196便	1,246人	6.36人			
③ 高山市線	毎日	4.0回	2,783便	2,376人	0.85人	5人	9人	1人
④ 芋原◆高山線	月◆水	1.0回	194便	365人	1.88人			
⑤ 正寺線	毎日	2.0回	1,233便	707人	0.57人	2人	10人	
⑥ 相坪◆正寺線	火◆金	1.0回	196便	460人	2.35人			
⑦ 佐屋◆小広線	火◆金	1.0回	196便	121人	0.62人			
⑧ 中筋◆陰地線	月◆水	1.0回	194便	269人	1.39人			
⑨ 上房線	月～金、1,3,5土	3.0回	678便	179人	0.26人	1人		
⑩ 白藤◆高岳線	火◆金	1.0回	196便	414人	2.11人			
⑪ 光松線	月～金、1,3,5土	1.0回	460便	17人	0.04人	5人	8人	
⑫ 麦の草◆三沢線	月◆水	1.0回	194便	128人	0.66人			
⑬ 臘数◆領家線	月◆水	1.0回	194便	239人	1.23人			
合計			8,655便	7,533人	0.87人	22人	45人	2人

③路線別利用状況

◆七地線：

第1,3,5土曜日運行便を含む9便中8便が1便当り平均利用者数1人未満。
7便が実車率50%未満。

※実車率：乗客があった便数／全運行便数

◆馬渡・七地線：

1便当り平均利用者数が6人以上と全路線中最も多く、実車率はほぼ100%。

単位：日、人

路線	七地線									馬渡・七地線	
	毎日	月～金 登校日	月～金 1.3.5土	月～金 1.3.5土	月～金 登校日	月～金 登校日	毎日	第1.3.5 土曜	第1.3.5 土曜	火・金	火・金
ダイヤ	七地東 6:45 ↓	七地東 7:30 ↓	七地東 15:35 ↑	七地東 15:35 ↓	七地東 17:05 ↑	七地東 17:05 ↓	七地東 17:55 ↑	七地東 13:30 ↑	七地東 13:30 ↓	馬渡 9:00 ↓	馬渡 13:43 ↑
	地頭	医療C	医療C	地頭	地頭	地頭	地頭	地頭	地頭	医療C	医療C
運行日数	360	225	274	274	202	202	360	22	22	98	98
利用者数	329	227	129	18	101	2	205	0	1	650	596
1便当り	0.91	1.01	0.47	0.07	0.50	0.01	0.57	0.00	0.05	6.63	6.08
実車率	61%	62%	36%	6%	44%	1%	44%	0%	5%	100%	99%

スクール併用便

1便当り平均利用者数1人未満、実車率50%未満

③路線別利用状況

◆高山市線：

9便中4便が1便当り平均利用者数1人未満。3便が実車率50%未満。

◆芋原・高山線：

行き（上り）便の平均利用者数2.67人に対し、帰り（下り）便は1.09人と、半分以下の利用に止まる。

単位：日、人

路線	高山市線									芋原・高山線	
	毎日	月～金 登校日	登校日と 休校日の 火金	毎日	毎日	毎日	毎日	月～金 登校日	毎日	月・水	月・水
ダイヤ	高山市 7:15 ↓ 7:49 川合	高山市 8:13 ↑ 7:46 地頭	高山市 8:20 ↓ 9:04 地頭	高山市 13:14 ↑ 12:23 川合	高山市 13:15 ↓ 13:49 川合	高山市 15:32 ↑ 14:58 川合	高山市 16:00 ↓ 16:27 地頭	高山市 17:02 ↑ 16:35 地頭	高山市 18:02 ↑ 17:28 川合	芋原 9:00 ↓ 9:53 地頭	芋原 14:28 ↑ 13:35 地頭
運行日数	360	202	220	360	360	360	360	202	359	97	97
利用者数	483	13	264	438	368	376	105	59	270	259	106
1便当り	1.34	0.06	1.20	1.22	1.02	1.04	0.29	0.29	0.75	2.67	1.09
実車率	72%	6%	66%	62%	58%	60%	23%	24%	50%	90%	65%

スクール併用便

1便当り平均利用者数1人未満、実車率50%未満

③路線別利用状況

◆正寺線：

第1,3,5土曜日運行便を含む5便中3便が1便当り平均利用者数1人未満、かつ実車率50%未満。

◆相坪◆正寺線、佐屋◆小広線、中筋◆陰地線：

- ・佐屋・小広線、中筋・陰地線の帰り（下り）便利用者数は、行き（上り）便の1/3に止まる。
- ・3路線6便中3便が1便当り平均利用者数1人未満。1便が実車率50%未満。

単位：日、人

路線	正寺線					相坪・正寺線		佐屋・小広線		中筋・陰地線	
	毎日	月～金	月～金	毎日	第1.3.5土曜	火・金	火・金	火・金	火・金	月・水	月・水
ダイヤ	正寺 7:28 ↓	正寺 15:19 ↑	正寺 15:45 ↓	正寺 16:49 ↑	正寺 12:54 ↑	相坪 8:30 ↓	相坪 12:41 ↑	佐屋東 13:05 ↓	佐屋東 17:02 ↑	中筋下 12:45 ↓	中筋下 17:07 ↑
	地頭 7:42	地頭 15:05	川合 16:06	川合 16:28	地頭 12:40	地頭 8:56	地頭 12:15	地頭 13:32	地頭 16:35	地頭 13:17	地頭 16:35
所要時間	0:14	0:14	0:21	0:21	0:14	0:26	0:26	0:27	0:27	0:32	0:32
運行日数	360	246	246	359	22	98	98	98	98	97	97
利用者数	362	71	26	248	0	275	185	93	28	201	68
1便当り	1.01	0.29	0.11	0.69	0.00	2.81	1.89	0.95	0.29	2.07	0.70
実車率	66%	23%	11%	55%	0%	96%	85%	63%	29%	87%	57%

スクール併用便

1便当り平均利用者数1人未満、実車率50%未満

③路線別利用状況

◆上房線：

第1,3,5土曜日運行便を含む全便（4便）が1便当り平均利用者数1人未満、かつ実車率50%未満。

◆光松線：

ほとんど利用なし

◆白藤・高岳線、麦の草・三沢線、臘数・領家線：

3路線6便中3便が1便当り平均利用者数1人未満。1便が実車率50%未満。

単位：日、人

路線	上房線				白藤・高岳線		光松線		麦の草・三沢線		臘数・領家線	
	月～金 1.3.5土	月～金 登校日	月～金 登校日	第1.3.5 土曜	火・金	火・金	月～金 1.3.5土	月～金 1.3.5土	月・水	月・水	月・水	月・水
ダイヤ	地頭 7:27	地頭 15:05	地頭 16:40	地頭 13:10	白藤 8:00	白藤 12:23	光松 7:40	光松 16:54	麦の草 8:00	麦の草 12:18	川上BC 8:30	川上BC 12:16
	↓ 7:57 地頭	↓ 15:35 地頭	↓ 17:10 地頭	↓ 13:40 地頭	↓ 8:28 地頭	↑ 11:55 地頭	↓ 7:57 医療C	↑ 16:35 医療C	↓ 8:28 医療C	↑ 11:50 医療C	↓ 8:46 医療C	↑ 12:00 医療C
所要時間	0:30	0:30	0:30	0:30	0:28	0:28	0:17	0:19	0:28	0:28	0:16	0:16
運行日数	246	202	202	28	98	98	230	230	97	97	97	97
利用者数	36	87	56	0	213	201	10	7	77	51	144	95
1便当り	0.15	0.43	0.28	0.00	2.17	2.05	0.04	0.03	0.79	0.53	1.48	0.98
実車率	11%	32%	25%	0%	87%	79%	4%	0%	53%	38%	81%	52%

スクール併用便

1便当り平均利用者数1人未満、実車率50%未満

③路線別利用状況

井原-高梁線（備北バス）

◆収支率15.1%（経常経費1,078万円、運送収入170万円）で、見直し対象路線

※高梁市地域公共交通総合連携計画に定める運行見直し基準：収支率20%未満の民間バス路線

◆高梁駅発14：45便は、スクール利用

井原-高梁線（高梁駅-加谷区間）乗降調査結果（H23.5.23～6.3）

単位：人

高梁駅→加谷											
	高梁駅 発時刻	乗車					降車				
		小学生以下	中学生	高校生	一般	計	小学生以下	中学生	高校生	一般	計
実数	6:45	0	1	0	20	21	0	1	0	17	18
	14:45	37	0	1	36	74	37	0	1	34	72
1便平均	6:45	0.0	0.1	0.0	2.0	2.1	0.0	0.1	0.0	1.7	1.8
	14:45	3.7	0.0	0.1	3.6	7.4	3.7	0.0	0.1	3.4	7.2
加谷→高梁駅											
	井原 発時刻	乗車					降車				
		小学生以下	中学生	高校生	一般	計	小学生以下	中学生	高校生	一般	計
実数	9:05	0	0	0	107	107	0	0	0	104	104
	17:38	0	2	0	11	13	0	2	8	11	21
1便平均	9:05	0.0	0.0	0.0	10.7	10.7	0.0	0.0	0.0	10.4	10.4
	17:38	0.0	0.2	0.0	1.1	1.3	0.0	0.2	0.8	1.1	2.1

- ◆運行経費は、備中地域の2.2倍、成羽地域の3.0倍
- ◆利用者1人当りの赤字額（市の負担）は**3,352円**
（備中地域の1.4倍、成羽地域の2.7倍）

表 23年度生活福祉バス収支状況

	経費	収入	赤字額(市の負担)		利用者数	備考
				利用者1人当り		
川上生活福祉バス	2,732万円	207万円	2,525万円	3,352円	7,533人	
備中生活福祉バス	1,211万円	138万円	1,073万円	2,340円	4,585人	22年度実績
成羽生活福祉バス	918万円	172万円	746万円	1,239円	6,024人	

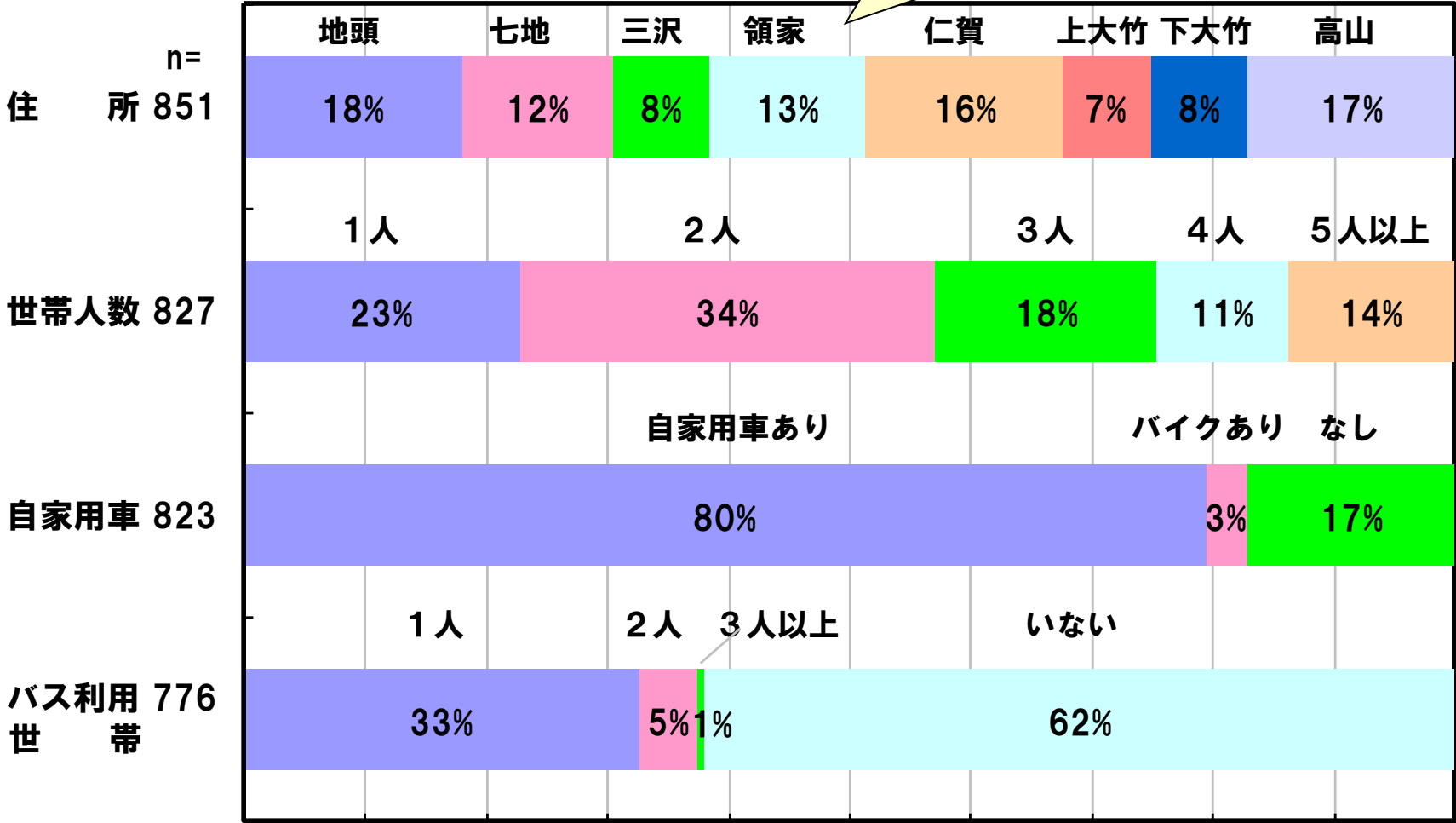
注1) スクール併用路線の経費は、スクールバス経費を差し引いた金額。

注2) 備中地域は、23年10月から乗合タクシーの実証運行にともなう併用運行という特殊事情から22年度実績を用いている。

⑤川上地域路線バス利用状況調査結果

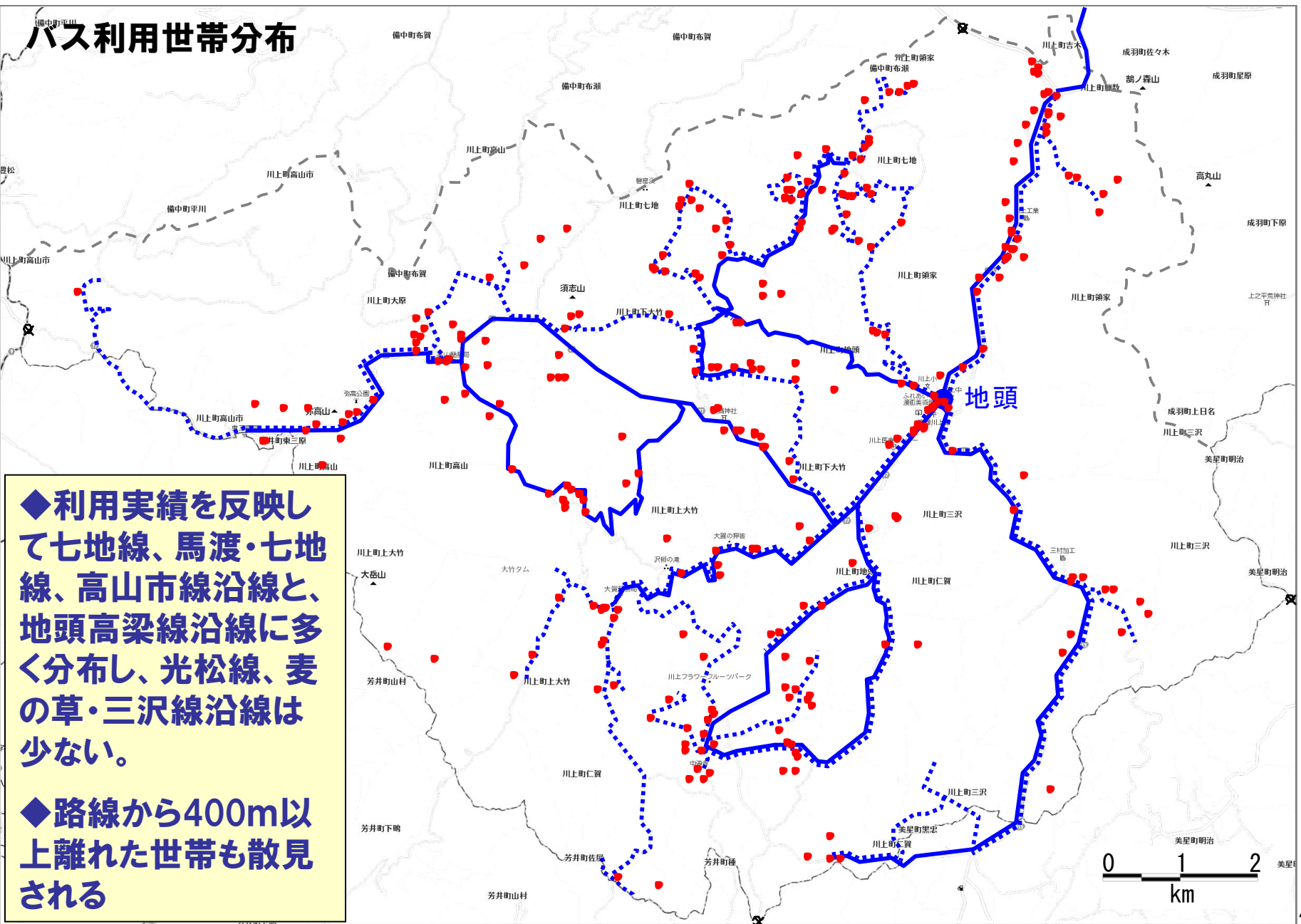
回答者属性

回答世帯の
 ◆80%が自家用車保有
 ◆38%が路線バスを利用



⑤川上地域路線バス利用状況調査結果

バス利用世帯分布



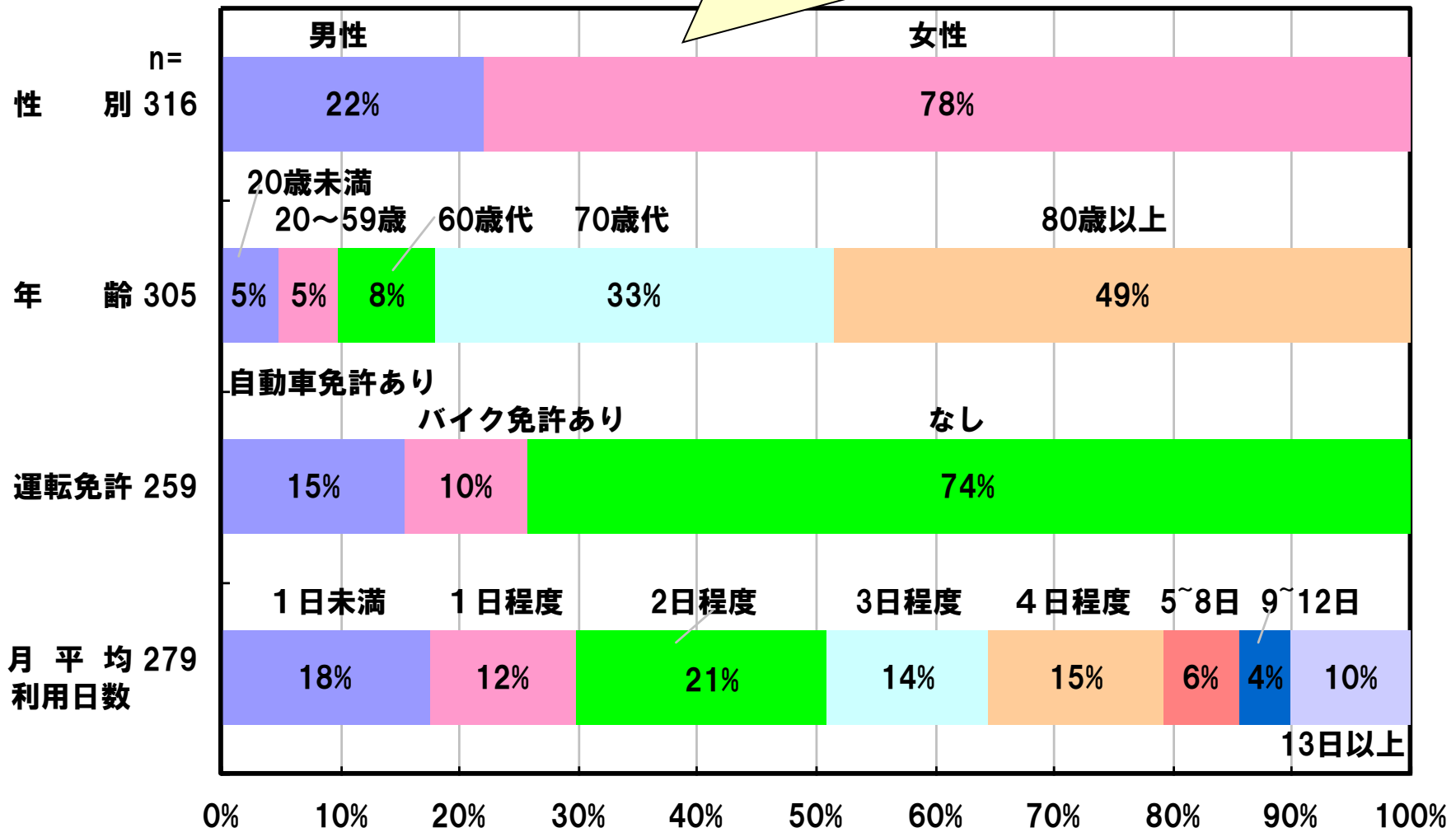
◆利用実績を反映して七地線、馬渡・七地線、高山市線沿線と、地頭高粱線沿線に多く分布し、光松線、麦の草・三沢線沿線は少ない。

◆路線から400m以上離れた世帯も散見される

⑤川上地域路線バス利用状況調査結果

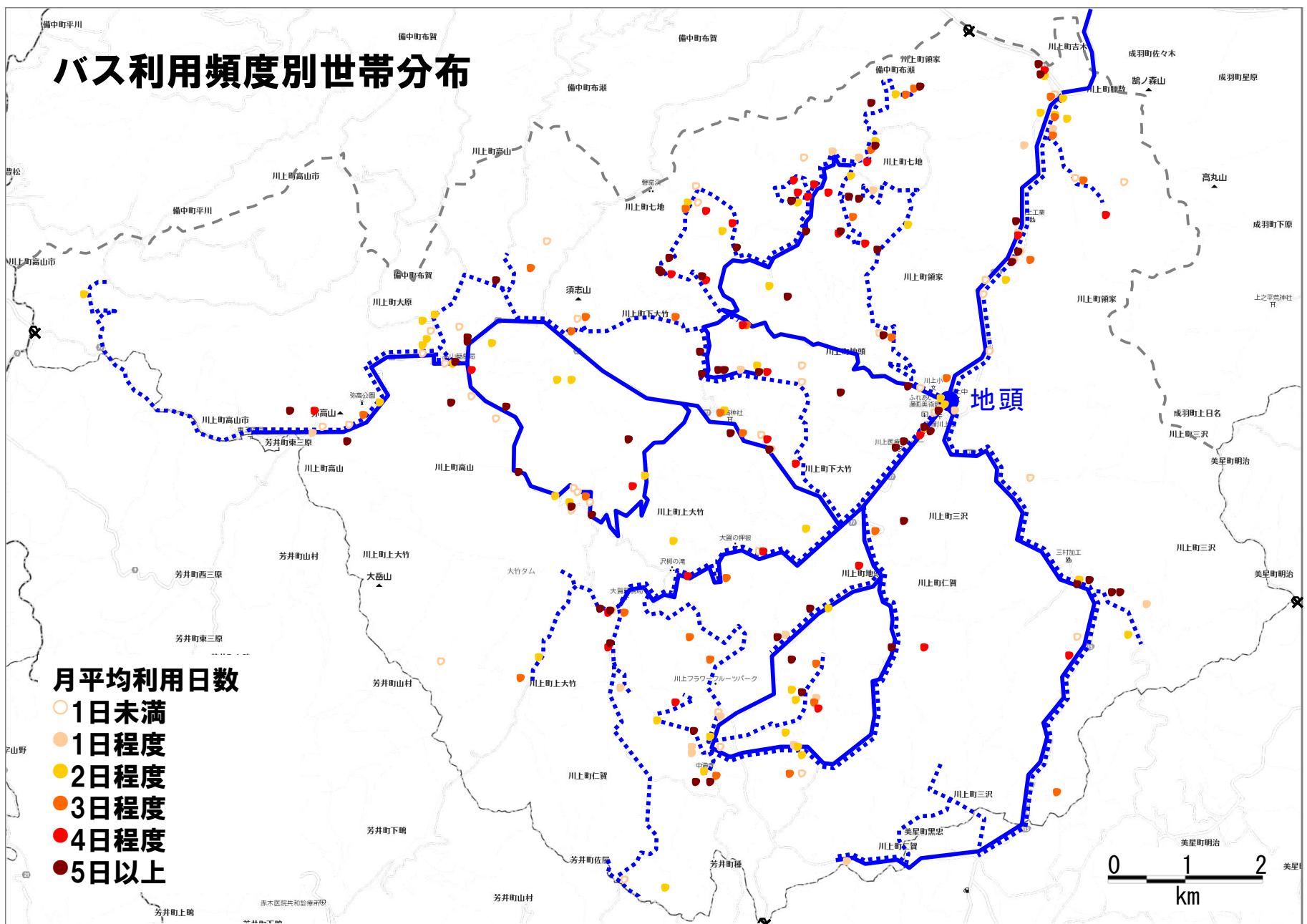
◆78%が女性 ◆49%が80歳以上
 ◆74%が運転免許なし
 ◆80%が週1回以下の利用（月4日程度以下）

バス利用者属性



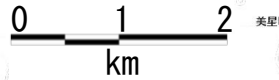
⑤川上地域路線バス利用状況調査結果

バス利用頻度別世帯分布



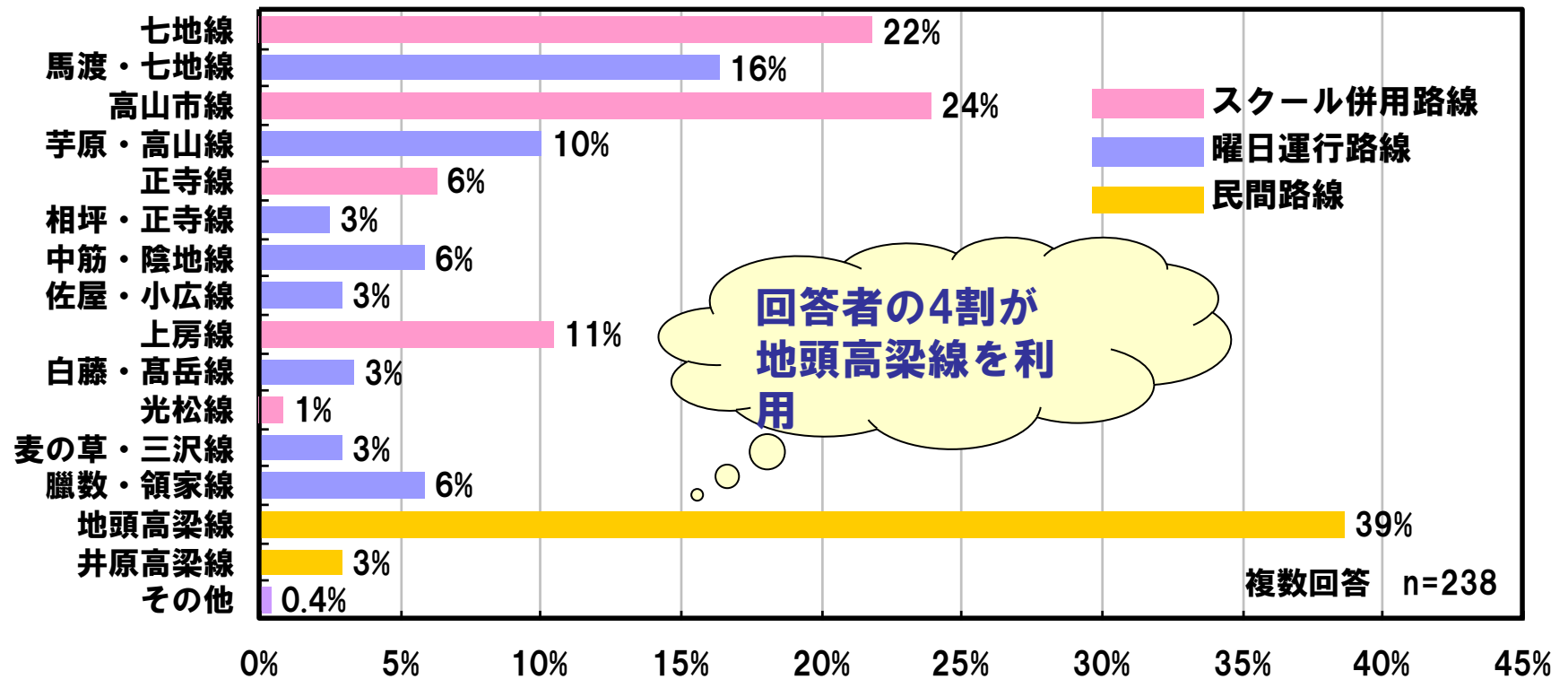
月平均利用日数

- 1日未満
- 1日程度
- 2日程度
- 3日程度
- 4日程度
- 5日以上

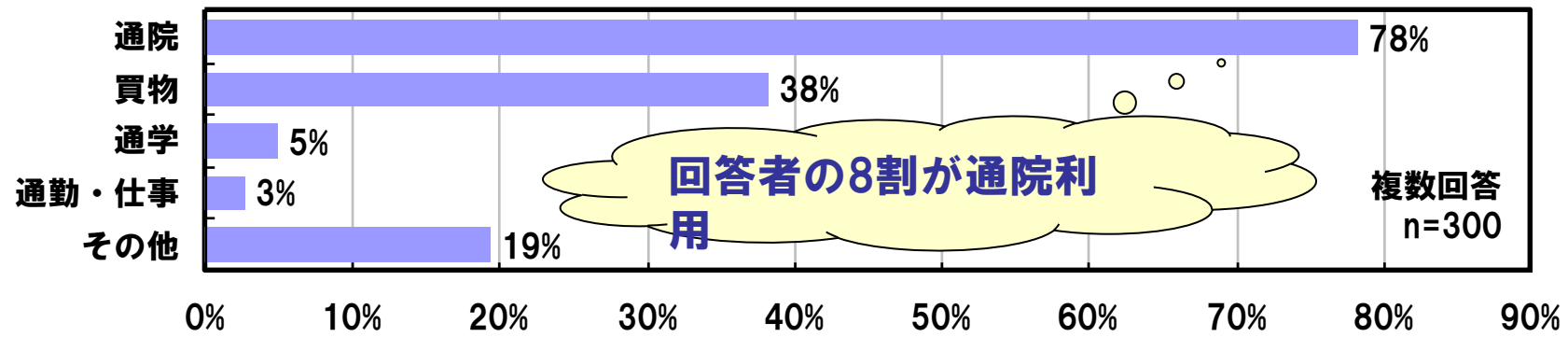


⑤川上地域路線バス利用状況調査結果

利用路線

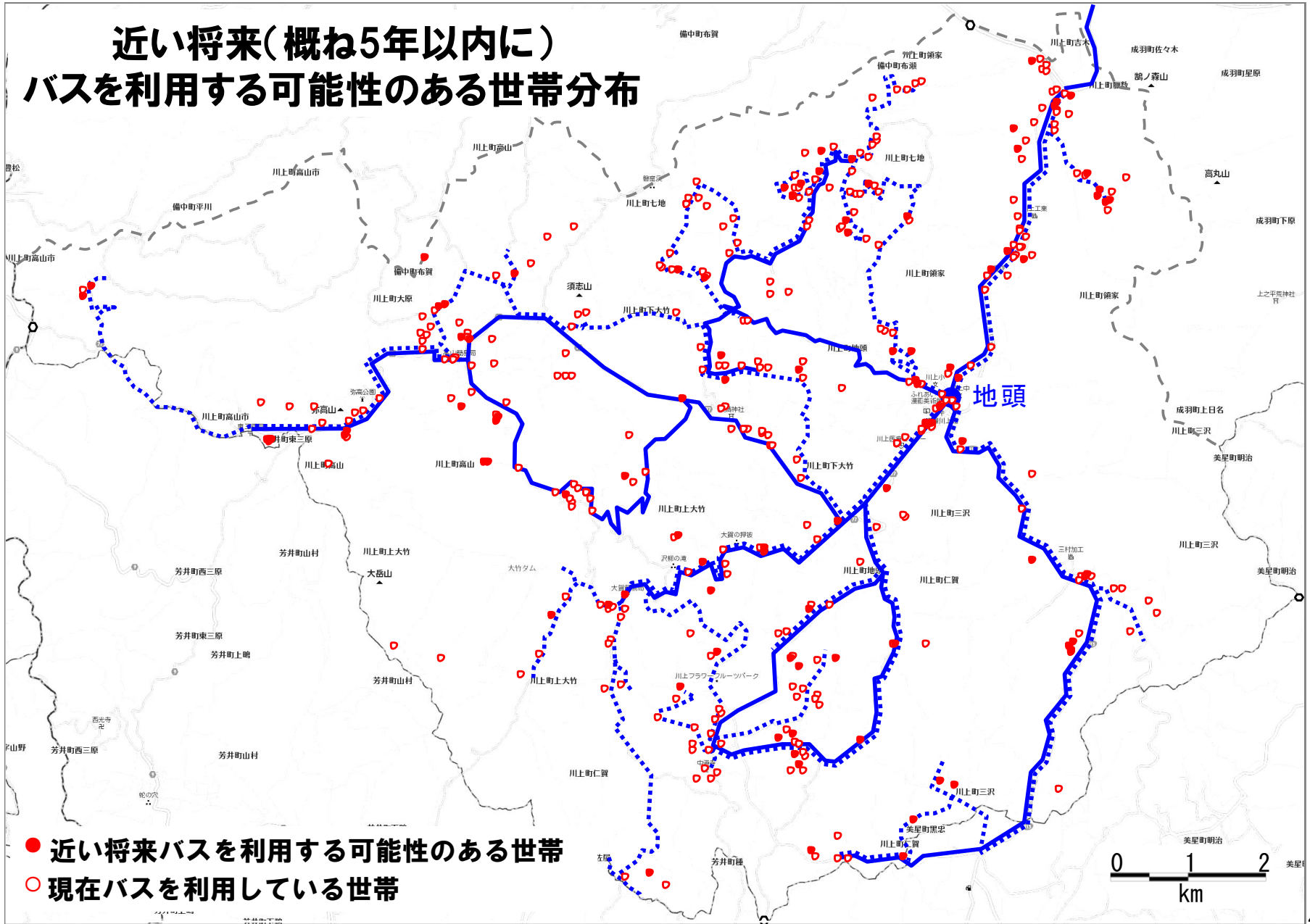


利用目的



⑤川上地域路線バス利用状況調査結果

近い将来(概ね5年以内に) バスを利用する可能性のある世帯分布

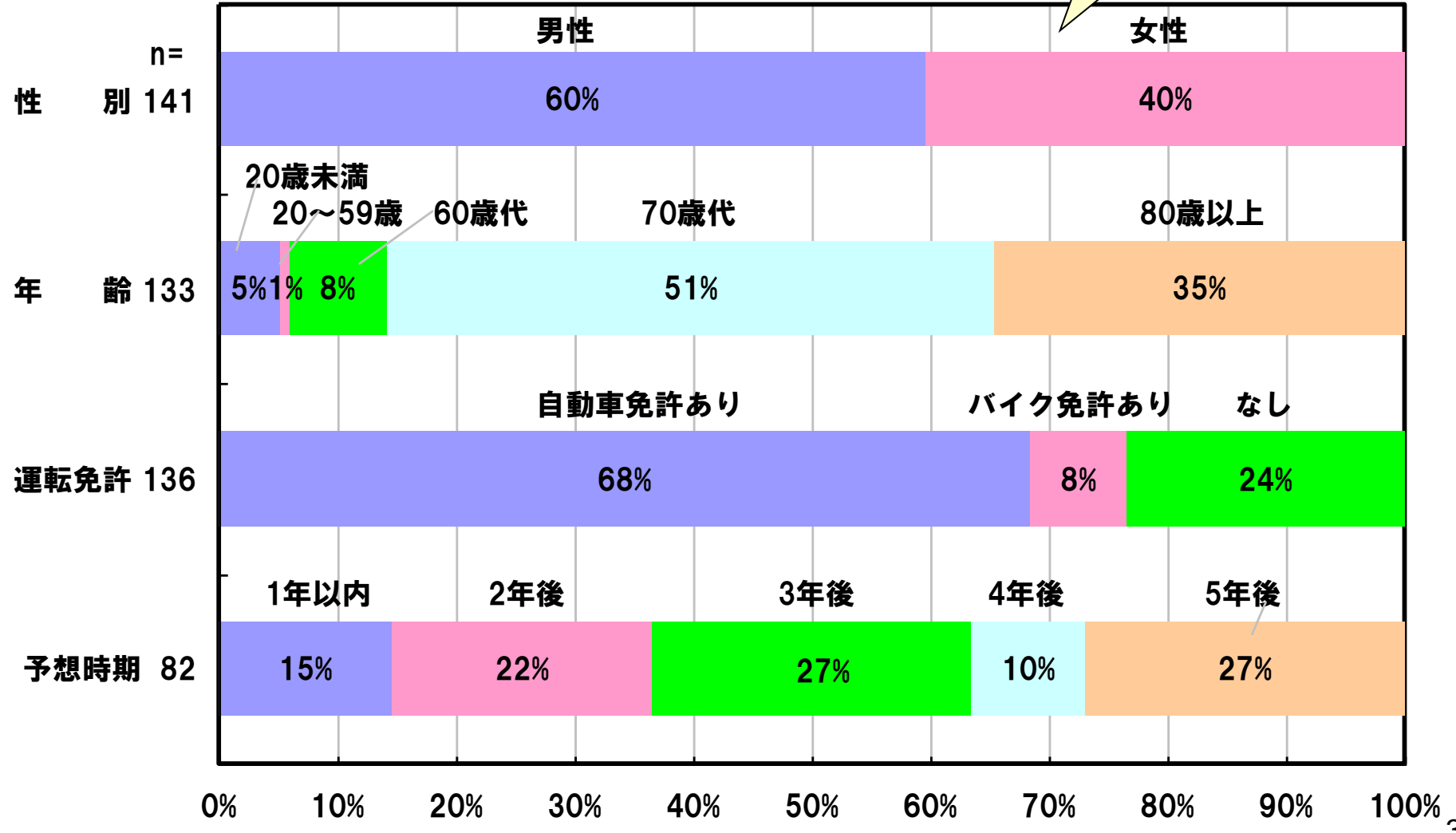


- 近い将来バスを利用する可能性のある世帯
- 現在バスを利用している世帯

⑤川上地域路線バス利用状況調査結果

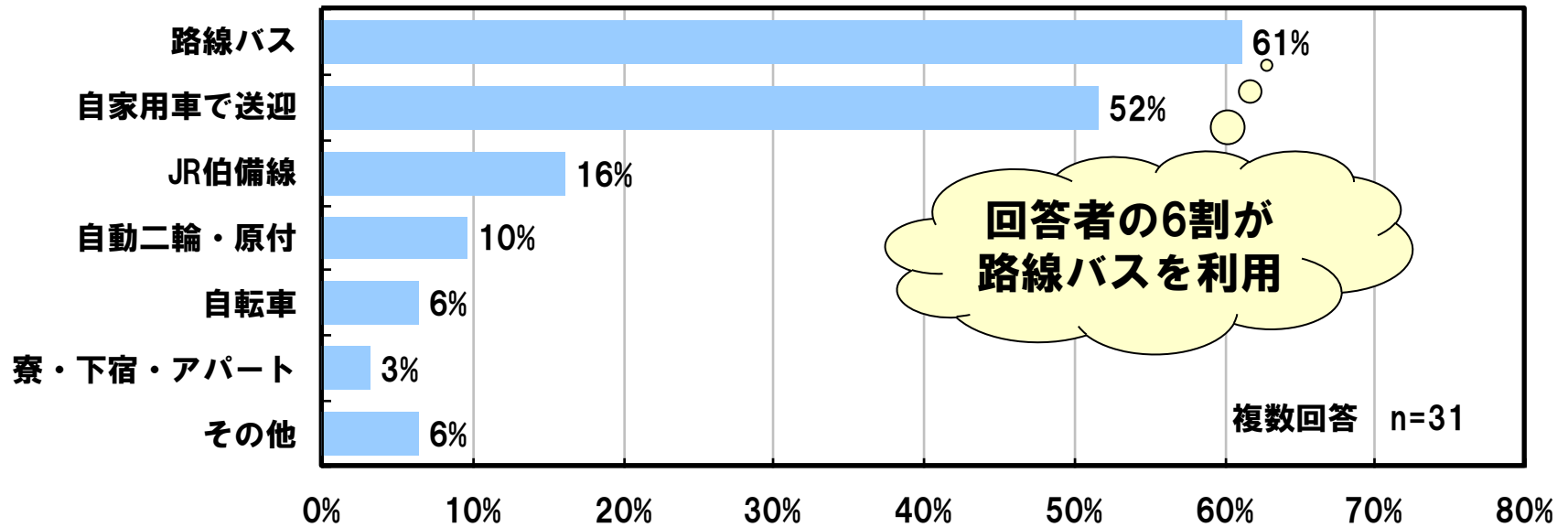
◆男性が6割を占める

近い将来バスを利用する可能性があるとする人の属性

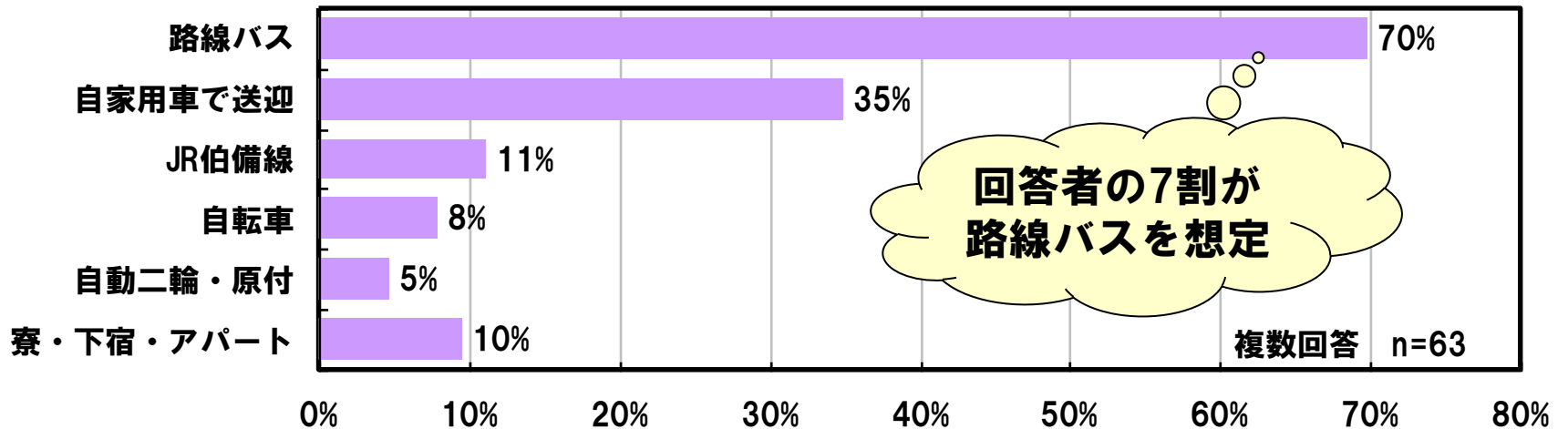


⑤川上地域路線バス利用状況調査結果

高校生の通学手段



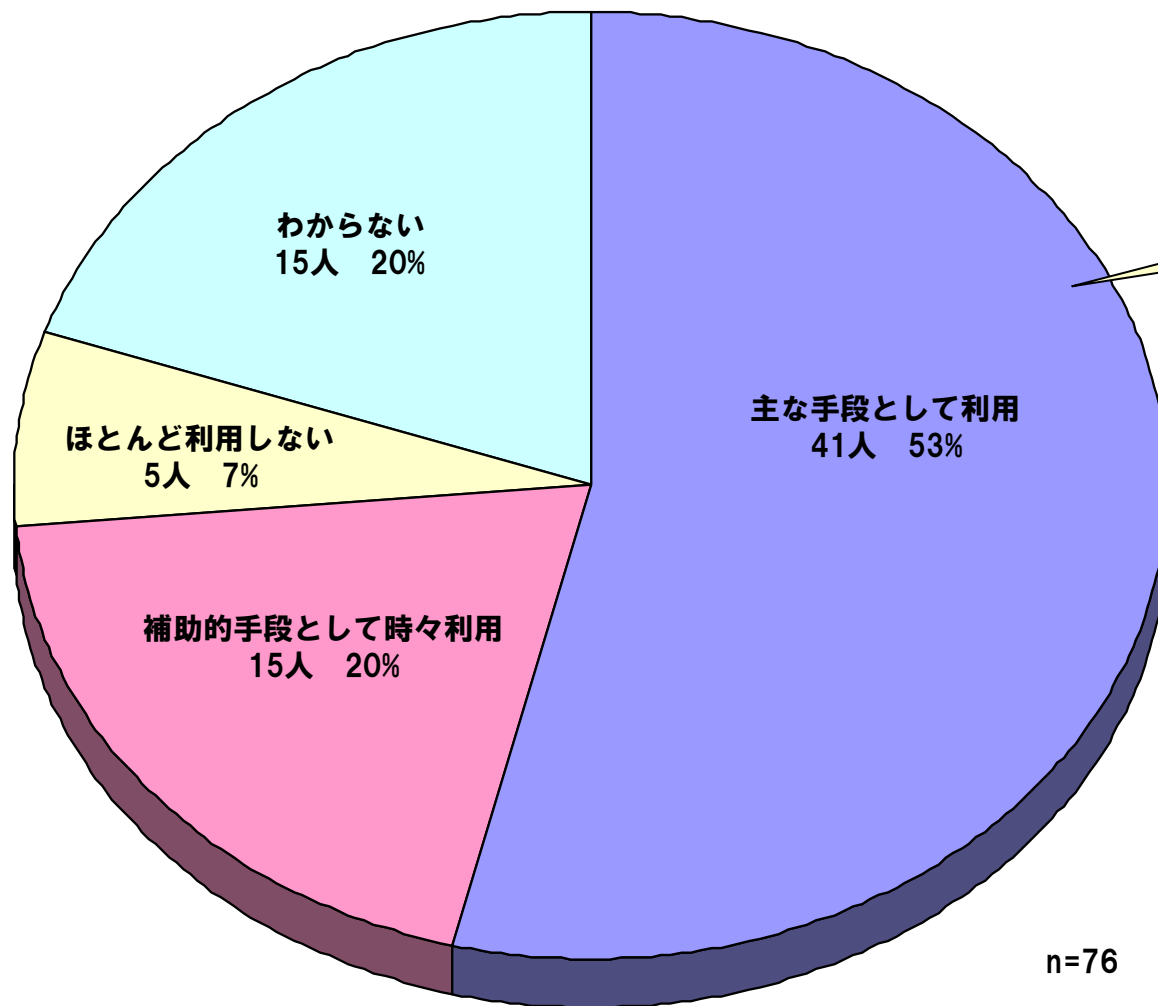
小中学生が高校生になったときの通学手段



スクール併用路線の通学利用意向

～地頭等での乗換を前提に高校通学に利用できるようになった場合の利用意向～

回答者の半数以上が主な手段として利用している



⑥意見交換会で出た主な意見・補足ヒアリング調査

意見交換会で出た主な意見

- ◆スクール併用路線「七地線」の周回ルートへの変更希望（七地）
- ◆土日等利用の少ない便の廃止は必要（七地ほか複数意見）
- ◆中学校の部活動に合わせた運行（18時頃発の便が必要）を希望（高山、地頭）
- ◆予約型のバスが効率的、乗合タクシーの実証運行を希望（地頭）
- ◆今の路線にこだわる必要はない（地頭）
- ◆医療センターからの帰り便までの待つ時間が長い。待つ場所がない（仁賀）
- ◆週1回でもよいので病院に行けるようにしてほしい（仁賀）
- ◆再編の前に利用促進活動を進める必要がある（上大竹）
- ◆定住を考えるならば、もっとバスを充実させるべきである（上大竹）

意見交換会を踏まえた補足ヒアリング調査結果概要

- ◆川上中学校：部活の関係からスクール便利用生徒のほとんどが朝夕とも保護者による自家用車送迎（部活終了時刻18：00。早朝練習7：30～）
- ◆医療センター：帰り便まで長く待つことになる人も多く、タクシーを利用したり、迎えに来てもらう人もいる。
- ◆生活福祉バスでの医療センター通院利用者：8人中3人が帰りにタクシーを利用することがあると回答。8人中4人が帰り便はもっと早いほうがよいと回答。

⑦川上地域公共交通の現状のまとめ

◆生活福祉バス路線網が充実

- ・路線バスを利用できない地域は少ない

◆バスの利用が少ない

- ・生活福祉バスは1便当り平均利用者数**0.87人**
- ・バス利用者の8割が**週1回以下の利用**

◆利用に合わないダイヤ

- ・部活の関係で中学生のスクール便時刻が合わず、中学生の利用はほとんどない
- ・医療センターでは、帰り便まで長く待つことになる人も多い

◆高額な生活福祉バス運行経費

- ・利用者1人当りの赤字額（市の負担）は3,352円（備中地域の1.4倍、成羽地域の2.7倍）

◆スクール併用路線の高校通学利用意向

- ・回答者の3／4は、利用を希望（主な手段53%、補助的手段20%）

2. 川上地域公共交通再編計画（素案）

（1）交通再編にあたっての基本方針

- ◆生活利便性の向上につながる公共交通
- ◆持続可能な公共交通

（2）交通再編の目的

①利用促進

生活福祉バス、民間路線バスの利用促進

②運行効率の向上

需要に見合った運行

③交通不便地域等の解消

高齢者を中心とした車を持たない方の移動手段の確保

(3) 実証運行計画策定に当たっての考え方

スクール併用路線

◆利用の少ない便を減便・廃止

減便・廃止またはスクール専用便化

※スクール専用便化の利点：学校行事に合わせた効率的な運行

曜日運行路線

◆帰り便の2便化

医療センター、地頭での待ち時間の短縮

◆乗合タクシー方式（予約型・区域運行）による路線統合

(3) 実証運行計画策定に当たっての考え方

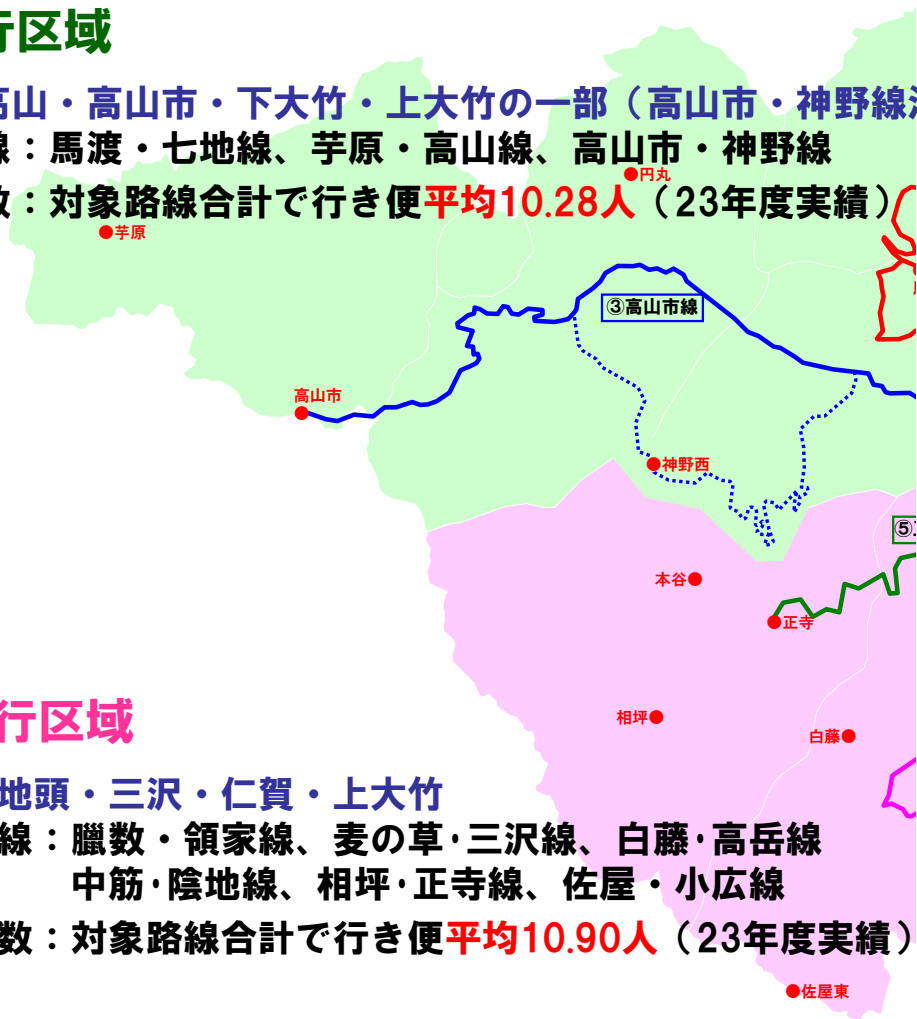
乗合タクシー運行区域区分とスクール併用路線

北部運行区域

○七地・高山・高山市・下大竹・上大竹の一部（高山市・神野線沿線）

対象路線：馬渡・七地線、芋原・高山線、高山市・神野線

利用者数：対象路線合計で行き便**平均10.28人**（23年度実績）



南部運行区域

○領家・地頭・三沢・仁賀・上大竹

対象路線：臘数・領家線、麦の草・三沢線、白藤・高岳線
中筋・陰地線、相坪・正寺線、佐屋・小広線

利用者数：対象路線合計で行き便**平均10.90人**（23年度実績）